

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 5時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の尊厳と自立を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の尊厳と自立について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の尊厳と自立を理解する。 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 社会の理解と I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 5時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険について介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護保険制度について自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護保険の制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険制を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第 1 巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>解答用紙を添削し、理解度高い順に A・B・C・D の区分で評価する。</p> <p>評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】</p> <p>A：97 点以上 B：94～96 点 C：90～93 点 D：89 点以下</p> <p>【医療的以外】</p> <p>A：90 点以上 B：80～89 点 C：70～79 点 D：69 点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活と福祉、社会保障制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活と福祉、社会保障制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>家族、地域、社会との関連から人間の生活と社会の関わりについて理解する。社会保障制度、障害者自立支援制度、個人情報保護、成年後見制度などの基礎的知識を理解し、利用者等に助言できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活と福祉、社会保障制度、障害者自立支援制度、介護実践に関連する諸制度を理解する。 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務を理解している。個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>・介護福祉士制度、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開、介護福祉士の倫理を理解する。・定められた期日までにレポートを提出してもらう。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護を必要とする人の生活を理解と支援、介護における他職種との連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全についての知識を習得している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護を必要とする人の生活の理解と支援、介護実践における連携、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護におけるコミュニケーション技術、介護現場における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護におけるコミュニケーション技術、介護現場における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションについて、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけている。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護におけるコミュニケーション技術、介護現場における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーションを理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術 I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援と I C F、ボディメカニクスの活用、基本的介護技術、環境整備、福祉用具活用等を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生活支援と I C F、ボディメカニクスの活用、基本的介護技術、環境整備、福祉用具活用等について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>生活支援における I C F の意義と枠組み、ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し実施できる。基本的な介護技術を習得している。居住環境の整備、福祉用具の活用等により利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援と I C F、ボディメカニクスの活用、基本的介護技術、環境整備、福祉用具活用等を理解する。 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>解答用紙を添削し、理解度高い順に A・B・C・D の区分で評価する。</p> <p>評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】</p> <p>A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】</p> <p>A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱・整容・口腔清潔・睡眠・終末期の介護について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱・整容・口腔清潔・睡眠・終末期の介護について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 介護過程 I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチについて、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護過程の目的、意義、展開等を理解している。介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護過程の基礎的知識、介護過程の展開、介護過程とチームアプローチを理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>解答用紙を添削し、理解度高い順に A・B・C・D の区分で評価する。</p> <p>評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】</p> <p>A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】</p> <p>A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 25時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護過程の実践的展開を理解する。 [授業全体の内容の概要] 利用者の状態について事例を設定し、介護過程を展開させる。また、観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他医療機関との連携等についても考察させ自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 情報収集、アセスメント、介護計画の立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・ 介護過程の実践的展開を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。 【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下 【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 4 5 時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程の実践的展開、介護技術の評価を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護過程の実践的展開、介護技術の評価について理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し活用できる。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し系統的な介護を提供できる。介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>・ 介護過程の実践的展開、介護技術の評価を理解する。</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p> <p>（実技試験） 「介護技術の評価」および「各科目の総合評価（総合試験）」がそれぞれC以上の場合認定する。</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解 I		授業の種類 自宅での個別学習 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>老化に伴う心・からだの変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>老化に伴う心・からだの変化と日常生活への影響について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響、老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心・からだの変化と日常生活への影響を理解する。 ・定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。</p> <p>評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】</p> <p>A : 97 点以上 B : 94~96 点 C : 90~93 点 D : 89 点以下</p> <p>【医療的以外】</p> <p>A : 90 点以上 B : 80~89 点 C : 70~79 点 D : 69 点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 人間の成長・発達、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点を理解する。					
[授業全体の内容の概要] 人間の成長・発達、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 発達の定義、発達段階、発達課題について、老年期の発達課題、心理的な課題と支援の留意点について、高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・人間の成長・発達、老年期の発達・成熟と心理、高齢者に多い症状・疾病等と留意点を理解する。 ・定められた期日までにレポートを提出してもらう。					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。 【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下 【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解 I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴、認知症の人とのかかわり・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴、認知症の人とのかかわり・支援の基本について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>認知症ケアの取組の経過を踏まえた今日的な認知症ケアの理念、認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴、認知症の人や家族に対する関わり方の基本を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの理念、認知症による生活障害、心理・行動の特徴、認知症の人とのかかわり・支援の基本を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順に A・B・C・D の区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医学的側面から見た認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医学的側面から見た認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>代表的な認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。認知症の人の生活歴、疾患、家族関係等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。地域におけるサポート体制を理解し支援に活用できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学的側面から見た認知症の理解、認知症の人や家族への支援の実際を理解する。 ・定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解 I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害者福祉の理念、障害による生活障害、心理・行動の特徴、障害児者や家族への関わり・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>障害者福祉の理念、障害による生活障害、心理・行動の特徴、障害児者や家族への関わり・支援の基本について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえた今日的な障害者福祉の理念、障害による生活上の障害、心理・行動の特徴、障害児やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者福祉の理念、障害による生活障害、心理・行動の特徴、障害児者や家族への関わり・支援の基本を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医学的側面から見た障害の理解、障害児者への支援の実際を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医学的側面から見た障害の理解、障害児者への支援の実際について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。地域におけるサポート体制を理解し支援に活用できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学的側面から見た障害の理解、障害児者への支援の実際を理解する。 ・定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p>		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ I		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な知識を理解する。 [授業全体の内容の概要] 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な知識について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・ 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な知識を理解する。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順に A・B・C・D の区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。 【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下 【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 自宅での個別学習 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 太田勝人、上原子美穂子 外崎礼子、三橋光子	
授業の回数	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 人間の心理、人体の構造と機能、身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護のアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点を理解する。 [授業全体の内容の概要] 人間の心理、人体の構造と機能、身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護のアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間の基本的欲求、学習・記憶等の基礎的知識、生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・間接・筋肉・神経等、人体の構造と機能の基礎的知識を修得している。身体の仕組み、心理・認知機能等の知識を活用しアセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] ・人間の心理、人体の構造と機能、身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護のアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点を理解する。 ・定められた期日までにレポートを提出してもらう。					
[使用テキスト・参考文献] 中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。 【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下 【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下		

【別紙 4】

授 業 概 要 （半期の場合の様式例）

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア		授業の種類 自宅での個別学習 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 佐藤美也子、佐藤貴子 工藤文子	
授業の回数	時間数(単位数) 50時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）を理解する。また必要回数の演習を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）について、自宅学習によって理解を深め、レポートを提出させ、指導添削する。また必要回数の演習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケア実施の基礎、喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）、経管栄養（基礎的知識・実施手順）を理解する。また必要回数の演習を行う。 ・ 定められた期日までにレポートを提出してもらう。 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 発行 介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 解答用紙を添削し、理解度高い順にA・B・C・Dの区分で評価する。 評価 A・B・C は合格、評価 D は不合格とする。なお、不合格となった科目については再度課題を提出させ、再評価を行う。</p> <p>【医療的ケア】 A：97点以上 B：94～96点 C：90～93点 D：89点以下</p> <p>【医療的以外】 A：90点以上 B：80～89点 C：70～79点 D：69点以下</p> <p>（実技試験） 喀痰吸引（口腔・鼻腔・気管カニューレ内部）および経管栄養（経鼻経管栄養および胃ろうまたは腸ろう）をそれぞれ5回以上、救急蘇生法演習を1回以上実施し、それぞれの評価項目のすべてができた場合認定する。</p>		